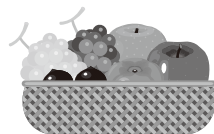




つばさだより

No.275

2017年10月



つばさ薬局 多賀城店	☎022(366)8001	吉川店	☎0229(22)7010
長町店	☎022(308)5711	泉店	☎022(772)1571
船岡店	☎0224(58)1065	若林店	☎022(289)8777
中新田店	☎0229(64)1888	松陽台店	☎022(361)9444
松島店	☎022(353)2990	上杉店	☎022(212)1126
玉川店	☎022(365)2838		

仲秋の候、皆様はいかがお過ごしでしょうか？

次第に気温が下がってきており、風邪を引きやすい季節となってきましたので体調管理に気をつけていきたいものです。今月は喘息に関してお話ししたいと思います。



喘息とは？

喘息は、現在国内の患者数が400万人を超えている呼吸器疾患の1つで、症状としてはダニ、ハウスダスト、寒気、運動、ストレスなどの種々の刺激が引き金となり、アレルギー反応として気管支の狭窄・閉塞が起こることで喘鳴（のどがゼーゼー、ヒューヒューと音がする状態）、息切れ、咳、痰などの症状が起こります。また、症状が重症化すると、呼吸が苦しくなったり、咳き込む等の発作が起こります。



喘息の原因

喘息発作は、ダニやハウスダストなどが原因で引き起こされる場合やアレルギー反応以外の原因によって引き起こされる場合があります。日常生活においてもご自身の喘息を悪くする原因を知り、原因を除去したり、避けるように心がけることが重要です。

★主な喘息の原因を以下に記載します

アレルギーを引き起こす原因となるもの(アレルゲン)	●ダニ ●ハウスダスト ●ペット (動物の毛やフケ) ●花粉 ●食物
アレルゲン以外の原因となるもの	●運動 ●タバコ ●過労・ストレス ●風邪などの感染症 ●大気汚染 ●天候・気温の変化 ●香水などの匂い



アスピリン喘息とは？

アスピリン喘息とは、アスピリンをはじめとする市販薬を含めた解熱鎮痛剤によって誘発される喘息のことです。

また、アスピリン喘息は、小児では少なく中年に発症することが多く、アレルギーのはっきりしない患者に多くみられます。発作においては一年中みられ、ほとんどが慢性副鼻腔炎（蓄膿症）や鼻茸（鼻のポリープ）を合併しています。

また、湿布などの外用薬でも発作が誘発されることがあり注意が必要です。

アスピリン喘息の患者さんが熱や痛みのある時は、アスピリン喘息が起こりにくい解熱鎮痛剤があるため、医師・薬剤師に相談しましょう。



治療について

●長期管理薬

1. 吸入ステロイド薬

吸入ステロイド薬は、気道の炎症を抑える効果が強力で、副作用が少ないことから、長期間にわたり喘息を管理するための第1選択薬として推奨されています。

また、この薬剤は喘息を起こさないよう症状を安定させるための薬であり、発作がないからといって勝手に減量したり使用を中止してはいけません。また、即効性は無いため、発作時に使用しても効果はありません。

吸入ステロイド薬は、最初に肝臓を通過した際にほとんどが代謝されてしまうため、全身的な副作用はほとんど起こりません。しかし、局所的な副作用としては口の中が荒れる、声がかすれるという副作用がみられるため、使用後のうがいをきちんと行う必要があります。代表的な薬剤として、フルタイド®、パルミコート®などがあります。

2. 長時間作用型 β 2刺激薬

長時間にわたり気管支拡張作用があり、呼吸機能の改善や喘息発作の予防に有効ですが、抗炎症作用はほとんどないため、通常は吸入ステロイド薬と併用して使用されます。タイプとしては、吸入薬、貼付剤、内服薬の3種類です。

副作用としては、動悸、不整脈、頭痛などの症状があり、副作用の頻度としては、内服薬>貼付剤>吸入薬の順で高いと言われています。代表的な薬剤として、セレベント®、ホクナリンテープ®などがあります。

3. 抗アレルギー薬

喘息治療において長期に服用する事により、症状発現を予防するのが目的です。

急性発作に対する効果は期待できません。

中でもよく使用される【ロイコトリエン受容体拮抗薬】は、ロイコトリエンという物質の働きを抑えることで気道の収縮を抑制したり、気道の炎症を抑えます。

また、吸入ステロイド薬が使用できない場合や吸入ステロイド薬の併用薬として使用されます。代表的な薬剤としては、オノン®、シングレア®などがあります。

4. テオフィリン

気管支を拡げて呼吸を楽にする作用があります。喫煙によって効果が減少しますが、禁煙することで逆に薬剤の効果が強く出たり、食欲不振などの消化器症状や動悸などの副作用も出やすくなるため、禁煙を開始する場合は医師に相談することが必要です。代表的な薬剤として、テオドール®、ユニコン®などがあります。

5. 抗コリン薬

気道の収縮に関わる副交感神経の働きを抑えることで気道を拡げる作用があります。また、抗コリン吸入薬は、穏やかに気道を拡張する作用があり、長時間作用型では1日1回の使用で24時間効果が持続します。

副作用としては、口の中の渇き、動悸などがあります。

また、緑内障や前立腺肥大の症状を悪化させる危険があるため、注意が必要です。代表的な薬剤として、テルシガン®などがあります。

●発作治療薬

短時間作用型β2刺激薬

発作時に速やかに気道を拡げて呼吸を楽にする薬剤です。

薬剤の特性からこのタイプの薬剤に頼りすぎてしまう患者がおり、吸入ステロイド薬を中心とした治療が不規則にならないよう注意する必要があります。

頻回に使用することで、動悸が起こるなど心臓に負担がかかることがあるため注意が必要です。代表的な薬剤として、サルタノール®、メプチン®などがあります。

吸入薬を使用する上で重要になってくるのが、吸入器具の的確な操作と正しい吸入方法です。誤った使用方法では、必要な薬の量が十分吸入できず喘息の症状を悪化させる可能性がありますので、吸入薬の使い方、不明な点に関しては薬剤師にご相談下さい。



参考資料・引用文献：

第一三共ヘルスケア（くすりと健康の情報局）、グラクソ・スミスクライン（喘息の総合情報サイト）、喘息・COPDの薬と患者指導・支援（じほう）

11月の栄養相談予定（各店10：00～12：00開催です）

- ・ 7日（火）古川店
- ・ 9日（木）玉川店
- ・ 13日（月）泉店
- ・ 16日（木）松島店
- ・ 21日（火）多賀城店
- ・ 22日（水）若林店
- ・ 28日（火）船岡店
- ・ 30日（木）上杉店